

多発性骨髄腫研究助成 2018 年度研究課題選考会総括

本研究助成事業は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002 年度に始まり、本年度は第 17 回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとっても、最も名誉ある研究助成の一つとなっています。責任の重さを痛感しながら「将来の骨髄腫患者さんのお役に立てる研究は何か」と、審査員一同自問自答しながら選考させていただきました。審査過程においては、上甲恭子さんをはじめ日本骨髄腫患者の会の皆様に事務的な側面から大変なご支援をいただきました。

今回応募課題は 5 題と多くはありませんでしたが、秀逸な課題ばかりで審査にも一段と力が入りました。審査委員会では、応募のありました研究課題 5 題について各研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について、5 名の選考委員により一次選考を行っていただきました。その上で審査会を開催して、それぞれの課題の内容や将来の骨髄腫診療に与える貢献度などについて率直な意見を出し合い、最終的に 1 研究課題を採択させていただきました。

採択した課題は以下のとおりです。

堀之内朗記念助成 助成額 200 万円

自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部 菊池 次郎 先生
「MMSET 阻害剤の開発」

多発性骨髄腫の病態研究の進歩は著しく、治療成績は年々向上しています。今回応募いただきました課題は、いずれも多発性骨髄腫の克服を目指した優れた研究であるとともに、医師・研究者としての情熱に溢れた課題ばかりでした。まさに、本助成金事業の趣旨をご理解いただいた上での応募課題でありました。そのような中で菊池先生の研究課題は、約 15% の患者さんに異常が認められ、治療薬に対する抵抗性に関与する蛋白質を標的とした新たな薬剤開発を目指したものです。これまで治療成績が不良であった一部の骨髄腫患者さんの予後を改善する可能性のある研究課題であり、将来臨床応用されることが期待されての受賞となりました。

病態研究、治療研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまに還元されることを祈っております。

2018 年 3 月

日本骨髄腫患者の会 多発性骨髄腫研究助成 選考委員会委員長
飯田 真介